

2024年度

第63回 日本社会学史学会大会プログラム

期日：2024年6月22日（土）～23日（日）

会場：立正大学（品川キャンパス・531教室）

☆第1日目 6月22日（土）

- I 新理事候補者会議 （11時30分～12時10分）
- II 新旧合同理事会 （12時15分～12時55分）
- III 開会の辞 （12時55分～） 日本社会学史学会会長 鈴木健之
- IV 一般研究報告1 （13時～13時50分） 司会 江頭太蔵（広島大学）
- ①チャーチスト運動と社会学：スペンサーの社会構想を手がかりとして
高森明（中央大学大学院）
- ②ウェーバーはなぜドイツ社会学会を退会したのか：大会『議事録』の
計量分析からのアプローチ 橋本直人（神戸大学）
- V 一般研究報告2 （14時～15時15分） 司会 小松丈晃（東北大学）
- ③遊びと宗教の進化ーロバート・ベラーの宗教進化論の変遷
宮部峻（立命館アジア太平洋大学）
- ④ハーバーマスの「コミュニケーション的行為の理論」における宗教的伝統の問題
六川雅英（東京大学大学院）
- ⑤ハーバーマスと欧州統合ートランスナショナルな連帯形成の可能性をめぐってー
佐藤成基（法政大学）
- VI 一般研究報告3 （15時25分～16時40分） 司会 眞鍋知子（金沢大学）
- ⑥実存哲学と大衆社会論に見る個人と大衆の関連性ー1950年代における
哲学と社会学の潮流、ならびに「国際哲学研究会」の活動に注目してー
小山義博（日本大学）
- ⑦日本資本主義精神論争史寸描ー1950～1960年代の主要文献を中心にー
川口順（佛教大学大学院）
- ⑧戦後日本の社会意識論と「立身出世主義」 品治佑吉（立教大学）
- VII 総会・表彰式 （16時40分～17時30分）

☆第2日目 6月23日(日)

VIII 一般研究報告4 (10時30分～12時10分) 司会 鈴木健之(立正大学)

- ⑨フロムの「魔術的助け手」の概念再考 原田聖士
- ⑩亡命社会学史の再検討 梅村麦生(神戸大学)
- ⑪ホルクハイマーの「理論と実践」—ルカーチではなくローザから読む
市川結城(東京大学大学院)
- ⑫パーソンズとルーマン—出会いと別れと収斂— 大黒正伸(創価大学)

IX シンポジウム (13時～16時30分)

共通テーマ

《 社会学説史を通して「社会学」を問うⅢ
—「社会学」の流動化と多様化 1970年代以後の社会学— 》

司会 佐藤成基(法政大学)、清家久美(立命館アジア太平洋大学)、橋本直人(神戸大学)

- 報告1 「日本の社会学者にみるフーコーへの接近と交差
—1970年代以降の幾つかの経験から—」 内田隆三(東京大学)
- 報告2 「フェミニズムが社会理論にもたらしたもの」
千田有紀(武蔵大学)
- 報告3 「機能分析と機能分化—ルーマン学説における方法と理論—」
三谷武司(東京大学)
- 討論者1 片桐雅隆(千葉大学)
●討論者2 片上平二郎(立教大学)

趣旨説明 (13時～ 13時10分)
報告 (13時10分～14時10分)
休憩 (14時10分～14時25分)
討論 (14時25分～15時10分)
リプライ (15時10分～15時30分)
フロア・総括 (15時30分～16時30分)

【大会のご案内】

- 報告時間 自由報告は25分（報告15分、質疑応答10分）
シンポジウムの報告時間は各20分、討論者発言は各15分
- 大会参加費 一般会員2,000円 学生会員・非会員1,000円
- 懇親会費 実施いたしません
- 大会・総会会場 531教室
- 会員控え室 513教室
- 理事会会場 52D教室（兼シンポ打合せ会場）
- 懇親会会場 実施いたしません
- 論文抜刷および
書籍等扱い 1週間前までに事務局へメール等にて必ずお申し出ください
大会当日の申し込みは一切お受けできません。厳守ください
- コピーについて コピーは個人の責任でお願いします。大会開催校および事務局では、
一切のコピーサービスをお断り申し上げます
- 開催校所在地 〒141-8602 品川区大崎4-2-16
(大会連絡先) 立正大学文学部鈴木健之研究室
TEL 03-3492-8791（文学部事務室）
- 飲食施設 大学周辺のコンビニ・飲食施設等をご利用ください。
昼食等は、各会員でご用意いただければ幸いです。
- 交通機関 JR大崎駅・五反田駅より徒歩5分
校舎案内 (詳細は、本学会HPおよび立正大学HPをご参照ください)

☆日本社会学史学会事務局

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水3-25-40
日本大学文理学部社会学研究室内
TEL 03-5317-8978（庶務担当直通）
FAX 03-5317-9423（学科研究室）